

令和5年度 実績報告書(特別養護老人ホーム幸せの里及びユニット型)

社会福祉法人 愛和会

項目	内容	
施設名	特別養護老人ホーム 幸せの里 及び 幸せの里 ユニット型	
所在地	薩摩川内市永利町 4311-5	
開設年月日	平成8年12月1日	
入所者定数・現数	定数 100名 現在入所者数 98名 (3月31日現在)	
事業実績	法人関係	・理事会・評議員会及び監事監査 ・内部経理監査 ・自衛消防訓練(2回)
	大行事	花見(4月) 夕涼み会(打上げ花火)(9月)
	その他行事	・クリスマス忘年会(12月) ・節分・豆まき(2月) ・ドライブ
	職員研修	・県外研修(1回・1名)オンライン研修 ・県内研修・県老協・県経協(8回・8名)オンライン研修 ・地区老協(3回・3名)オンライン・アンケート形式 ・会議(処遇会議、給食会議、事故対策会議、衛生・感染症・身体拘束・防災委員会) ・施設内研修会(毎月定めたテーマに基づき勉強会実施) ・新入職員教育実践セミナー(該当なし)
	各種受入	・実習及び研修会 介護等体験、川内看護専門学校 鹿児島純心女子大学他 ・ボランティア 一部再開 三河家劇団、五つ太鼓演奏等来園
	要介護分布	1.男 21名, 女 77名 最高齢者 101歳 平均年齢 90.2歳 要介護 5 …30名 30.6% [要介護度平均 4.2] 要介護 4 …56名 57.1% 要介護 3 …12名 12.2% 計 98名

まとめ

従来型:年間利用延べ人数 20,663名、56.6名/日、94.3%の稼働率

(令和4年度 20,983名、57.4名/日、95.8%)

ユニット型:年間利用延べ人数 14,312名、39.2名/日、98%の稼働率

(令和4年度 14,199名、38.9名/日、97%)

特養全体で年間利用延べ人数 34,975名、95.8名、96%の稼働率

(令和4年度 35,182名、96.3名/日、96%)

対前年とほぼ同様の稼働率であり、目標稼働率98%には及ばず。今年度は積極的に面会の要望を受け入れ、それを理由に当施設を希望される方も少なくなかった。

# 令和5年度 実績報告書

## (ケアハウス すこやかハイツ)

社会福祉法人 愛和会

### 事業実績

- ① 行事 毎週月曜、木曜実施の生協バスによる買い物支援  
毎週火曜、金曜実施、病院送りサービス
- ② 職員研修 施設内テーマ別研修

### ③ 運営状況

定員 30 名に対し、入居 3 名、退去 10 名、利用延べ人数、昨年より大幅に落ち込み 278 名、平均 23.2 名、77.2%の入居率となる。退去者 10 名の転居先は階下特養へ移動 4 名、他介護施設への転居 3 名、医療機関への入院に伴う退去 2 名、介護者帰郷による在宅復帰 1 名とケアハウスでの独居生活を在宅サービスだけでは補えないことを理由に退去されている。新たな入居希望問い合わせも絶えないがサービス不足を理由に入居を躊躇されることも少なくない。最終的に夫婦部屋 4 室 7 床の空床と個室 3 室空床。定員 30 名に対し 20 名在籍にて年度末をむかえる。

### ④ 利用者内訳 男性 6 名 女性 14 名 (計 20 名)

※最長入居は平成 20 年 2 月入居の女性 1 名、16 年 2 ヶ月 (平均入居期間 5 年 1 ヶ月)

### ⑤ 平均年齢 87 歳 (68 歳男性が最年少、103 歳女性が最高齢)

### ⑥ 収入階層区分

収入 150 万円以下	13 名	自己負担額 8 万 2 千円(うち県補助金額約 5 万 2 千円)
収入 190 万から 200 万円	2 名	自己負担額 9 万 7 千円(うち県補助金額約 3 万 7 千円)
収入 200 万から 210 万円	1 名	自己負担額 10 万 2 千円(うち県補助金額 3 万 2 千円)
収入 210 万から 220 万円	2 名	自己負担額 10 万 7 千円(うち県補助金額 2 万 7 千円)
収入 230 万から 240 万円	1 名	自己負担額 11 万 7 千円(うち県補助金額 1 万 7 千円)
収入 250 万から 260 万円	1 名	自己負担額 12 万 0 千円 (うち県補助額 5,000 円)

### まとめ

9 割の稼働率を目標とするも、状況は改善せず、むしろ悪化している。直接の介護支援がないケアレス施設であるため外出や外泊の自由度、生協バスの買い物支援、無償での病院送りサービス等の現状サービスに加え、有効なセールスポイントを拡充することが急務であり。対抗する有料老人ホームより低額で、明確な有効性を確立できなければ選ばれる施設とはなり得ない。

令和5年度 在宅サービス事業実績報告書（デイサービスセンター）

項目	内 容									
事業名	通所介護事業、介護予防・日常生活支援総合事業									
事業目的	在宅の虚弱の高齢者等に対し、通所により各種のサービスを提供することによって高齢者の生活の助長、社会的孤立感の解消、心身機能の維持向上を図るとともに、その家族の身体的、精神的な軽減を図る。									
開設日	平成9年2月12日									
地区	薩摩川内市									
職員数	相談員2名		介護職員8名			看護職員2名				
事業実績	登録者実数	R2	99名	参加率	R2	78.4%	売上高	R2	48,422,000円	
		R3	82名		R3	80.2%		R3	43,061,000円	
		R4	82名		R4	77.7%		R4	39,148,000円	
		R5	88名		R5	80.0%		R5	41,439,000円	
	登録年間延人員	R2	8,446名	日平均利用者数	R2	23人	複数利用	R2	31人	
		R3	7,622名		R3	21人		R3	11人	
		R4	7,368名		R4	19.9人		R4	5人	
		R5	7,678名		R5	21.2人		R5	なし	
	利用年間延人員	R2	6,623名	月平均開催数	R2	24日				
		R3	6,115名		R3	24.2日				
		R4	5,726名		R4	23.9日				
		R5	6,150名		R5	24日				
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間289日稼働（日、祭日、お盆：8月14.15日、年末年始：12/29～1/3日休業）</li> <li>・本年臨時休業：令和5年8月9日台風接近のため休業</li> </ul>									
職員研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県老人福祉施設協議会テーマ別研修会</li> <li>○薩摩川内市通所介護事業所 連絡協議会 研修会（生活相談員、看護職員）</li> <li>○施設内研修</li> </ul>									
まとめ	<p>コロナ以前、令和2年の売り上げには及ばないものの昨年度より登録者数増加、実利用数も伸び、売上も200万程改善する。ただし1日当たりの平均利用者数は21名、定員の61%とまだまだ改善の余地があり、現登録者の利用推進と新規利用者の開拓を行うことで目標の75%稼働、1日あたり25名の利用者確保を目指していく。レクリエーション内容の刷新、嗜好調査に基づく食べたい昼食メニューの提供、生協バスの品揃えの拡充等、現行サービスを見直し、利用者ニーズを充足できるようなサービス提供体制の構築をはかる。</p>									

令和5年度 在宅サービス事業実績報告書(支援センター)

社会福祉法人 愛和会

項目	内容
事業名	在宅介護支援センター事業, 居宅介護支援事業
事業目的	1.総合相談及び情報提供(地域包括支援センターのランチ) 2.その他相談及び70歳到達者の実態把握調査 3.高齢者基本台帳の整備(ネットワークシステムの入力) 4.介護予防プラン策定および定期訪問 5.保健福祉サービスの利用支援・代行申請 6.その他関係機関との連携 7.苦情受付 8.圏域担当者会議・地域ケア会議・処遇困難ケース検討会の参加 9.民生委員・健やか支援アドバイザー等との連携 10.地域活動の開発・育成
所在地	薩摩川内市永利町 4311 番地 5 特別養護老人ホーム幸せの里 内
開設日	平成9年2月1日
地区	永利・平佐東
職員数	主任ケアマネージャー 1名 ソーシャルワーカー 1名(兼務)
利用料	薩摩川内市からの委託料にて活動、利用者負担なし
事業状況	活動 ・電話相談 … 70件 (71件) ※( )内は昨年実績 ・来所相談 … 30件 (22件) ・実態調査 … 200件 (190件) ・DASC調査 … 5件 (3件) (市より依頼のあったケースのみ限定)
事業実績	職員研修 ○健やか支援アドバイザー研修会(主催:薩摩川内市社会福祉協議会) ○介護保険サービス提供事業者連絡会 ○地域包括・在宅介護支援センタースクラム会議(年3回開催) ○在宅介護支援センター職員介護予防教室実施研修会及び意見交換会 ○地域包括支援センター・在宅介護支援センター連絡会 ○ランチ会議(年2回)
まとめ	1.月1回開催の圏域担当者会議にてハイリスク者をピックアップし,早期対応に努める。 2.介護保険・医療保険(後期高齢者医療制度)制度上,必要に応じた対応を実施。地域資源の広報に努める。(給食サービス,緊急通報装置,各申請代行等) 3.高齢者虐待(ネグレクト等)の被害者、困難ケース等に対して,地域包括や市と連携し,早期対応に努める。 4.高齢者に対する詐欺事件等が,未然に防げるよう,声かけや訪問を行う。 5.地域の行事等にも参加(祭り等)し,広報に努める。 6.「成年後見制度利用促進」の広報に努める。 7.月1回の民・児協の定例会に参加し,情報収集や情報交換を行う。 8.市に認知症高齢者等の見守り SOS ネットワーク体制が構築され,事前に登録してある情報により,行方不明の未然防止と徘徊発生時の早期発見・保護につながる事ができる。 9.お茶の間トーク(座談会)